

入賞者一覧

《特別賞 北海道教育委員会教育長賞》

札幌光星中学校 2年 岡本 佳晃

《特別賞 北海道立文学館賞》

札幌市立札幌北小学校 5年 水野 夏帆

《特別賞 北海道歌人会賞》

北海道小樽未来創造高等学校 2年 齋藤 夢花

《特別賞 北海道新聞社賞》

北海道札幌東高等学校 1年 細川 愛佳

《優秀賞》

網走市立網走小学校 1年 吉田 大

網走市立網走小学校 2年 吉田 美里

札幌市立西岡小学校 6年 伊部 智成

室蘭市立天神小学校 6年 藤原 実柚

安平町立早来中学校 2年 城畑 有玖

立命館慶祥中学校 2年 鈴木 雛乃

北海道釧路商業高等学校 2年 千葉 香凜

北海道札幌西高等学校 3年 小野寺弘泰

《佳作》

北広島市立東部小学校 2年 多門 花佳

札幌市立幌南小学校 3年 松浦 結斗

札幌市立札幌苗小学校 1年 坂上 彩月

札幌市立中央小学校 1年 橋本 作

札幌市立篠路西小学校 6年 須藤 さち

《入選》

札幌市立新琴似小学校 4年 佐々木 優

札幌市立新琴似小学校 4年 皆川蒼大朗

札幌市立手稲鉄北小学校 6年 菊地 舜弥

江別市立大麻東中学校 2年 山内 星來

札幌市立向陵中学校 1年 矢野 七雨

札幌市立東白石中学校 2年 千葉 緑

登別市立鷺別中学校 2年 尾崎 悠空

北海道小樽未来創造高等学校 3年 阿部 光佑

北海道小樽未来創造高等学校 3年 西岡 伊織

北海道釧路湖陵高等学校(定時制) 4年 森谷 麻未

北海道釧路商業高等学校 2年 鈴木 日毬

札幌市立栄北小学校 3年 木村 桜空

札幌市立桑園小学校 3年 安井 心美

札幌市立中央小学校 2年 井上 椿

札幌市立日新小学校 1年 木島ほのり

札幌市立平岡南小学校 3年 伊藤ひかり

札幌市立伏見小学校 2年 三上 凜花

札幌市立北陽小学校 2年 西山 陽也

新ひだか町立高静小学校 3年 原 万琴

北海道教育大学附属札幌小学校 1年 石塚 立夏

旭川市立豊岡小学校 4年 和田優空音

小樽市立奥沢小学校 6年 成田 花梨

小樽市立奥沢小学校 6年 山谷 海斗

釧路市立鳥取西小学校 5年 山根 悠聖

札幌市立北小学校 5年 松浦 梨瑚

札幌市立幌北小学校 6年 川村 煌

札幌市立札幌北小学校 5年 奥 桜心美

札幌市立札幌北小学校 5年 新倉 咲音

札幌市立新琴似小学校 4年 五十嵐優真

札幌市立新琴似小学校 6年 一條 宏太

札幌市立新陽小学校 6年 上坂 亜季

札幌市立東光小学校 5年 高橋 佑奈

札幌市立屯田南小学校 5年 枝元 凌大

札幌市立北都小学校 5年 時田航乃介

札幌市立北光小学校 5年 赤坂 璃子

札幌市立宮の森小学校 6年 須部 玲瓏

室蘭市立天神小学校 6年 菊地 穂香

旭川市立中央中学校 2年 田中 夏海

網走市立第三中学校 2年 藤川 溪寿

網走市立第三中学校 2年 矢尾 実冬

石狩市立樽川中学校 2年 吉田 咲季

江別市立大麻東中学校 2年 和田明倅実

小樽市立望洋台中学校 2年 成田 一音

釧路市立共栄中学校 2年 笹川 歩夢

釧路市立共栄中学校 2年 高瀬 遥陽

札幌光星中学校 2年 住吉 康生

札幌市立栄町中学校 1年 松倉 永和

札幌市立東白石中学校 2年 中野 美央

札幌市立東白石中学校	2年	山本 実空
せたな町立瀬棚中学校	3年	川南 愛奈
苫小牧市立明野中学校	2年	三浦 星
苫小牧市立光洋中学校	2年	勝木 章太
登別市立鷺別中学校	2年	野崎奈菓子
立命館慶祥中学校	2年	廣瀬 莉子
池上学院高等学校	2年	柏原可奈子
帯広北高等学校	1年	藤村 瀬那
帯広北高等学校	2年	馬淵 彩
帯広北高等学校	3年	田中 碧依
帯広北高等学校	3年	渡邊 颯
札幌市立北翔養護学校高等部	3年	堅田 真衣
札幌創成高等学校	3年	金吉 真暉
北海道小樽未来創造高等学校	3年	池田 有沙
北海道小樽未来創造高等学校	3年	小川 大輝
北海道小樽未来創造高等学校	3年	金澤 彩果
北海道小樽未来創造高等学校	3年	竹生 亮太
北海道小樽未来創造高等学校	3年	長谷川愛唯
北海道小樽未来創造高等学校	3年	渡邊 乃愛
北海道釧路湖陵高等学校(定時制)	4年	米澤 一哲
北海道札幌北高等学校	3年	武藤 由奈
立命館慶祥高等学校	1年	名取秀太郎
立命館慶祥高等学校	3年	今 裕矢

○応募状況

応募全作品

五,五一四首

小学一～三年生の部 四六首

小学四～六年生の部 一,八七六首
中学生の部 二,六四二首
高校生の部 九五〇首

【団体応募】

小学校 三四校
中学校 五五校
高等学校 九校
特別支援学校 四校
その他 一団体

団体応募一覧

計一〇三団体

旭川市立豊岡小学校／厚岸町立真龍小学校／岩見
沢市立第二小学校／岩見沢市立中央小学校／岩見
沢市立南小学校／岩見沢市立メーブル小学校／恵
庭市立松恵小学校／遠軽町立白滝小学校／小樽市
立奥沢小学校／小樽市立手宮中央小学校／札幌市
立幌北小学校／札幌市立札幌苗北小学校／札幌市立
三角山小学校／札幌市立篠路小学校／札幌市立篠
路西小学校／札幌市立新琴似小学校／札幌市立新
琴似南小学校／札幌市立新陽小学校／札幌市立澄
川西小学校／札幌市立手稲鉄北小学校／札幌市立
屯田南小学校／札幌市立西岡小学校／札幌市立二
条小学校／札幌市立平岡南小学校／札幌市立北都
小学校／札幌市立みどり小学校／札幌市立山の手
南小学校／中富良野町立西中小学校／函館市立東
山小学校／富良野市立扇山小学校／別海町立別海
中央小学校／北海道教育大学附属札幌小学校／室
蘭市立天神小学校／湧別町立開盛小学校／旭川市
立桜岡中学校／旭川市立中央中学校／厚真町立厚
南中学校／網走市立第三中学校／安平町立早来中
学校／石狩市立樽川中学校／岩見沢市立上幌向中

学校／岩見沢市立北村中学校／枝幸町立枝幸中
学校／枝幸町立枝幸南中学校／恵庭市立恵み野中
学校／江別市立大麻東中学校／遠軽町立白滝中
学校／遠軽町立南中学校／置戸町立置戸中学校／小樽
市立桜岡中学校／小樽市立北陵中学校／帯広市立
望洋台中学校／小樽市立北陵中学校／帯広市立川
西中学校／神恵内村立神恵内中学校／北見市立
おんねゆ学園／清里町立清里中学校／釧路市立共栄
中学校／釧路町立別保中学校／黒松内町立黒松内
中学校／札幌市立北野台中学校／札幌市立栄南中
学校／札幌市立札幌苗中学校／札幌市立信濃中
学校／札幌市立定山溪中学校／札幌市立屯田北中
学校／札幌市立東白石中学校／札幌市立平岸中
学校／札幌市立北都中学校／札幌市立前田中
学校／札幌市立真駒内中学校／札幌市立宮の丘中
学校／札幌市立もみじ台中学校／せたな町立瀬棚中
学校／滝川市立開西中学校／伊達市立光陵中
学校／千歳市立東千歳中学校／天塩町立天塩中
学校／苫小牧市立明野中学校／苫小牧市立沼田中
学校／登別市立登別中学校／登別市立鷺別中
学校／函館市立五稜郭中学校／東神楽町立東
神楽中学校／富良野市立麓郷中学校／むかわ町立
穂別中学校／立命館慶祥中学校／稚内市立潮見が
丘中学校／旭川実業高等学校／帯広北高等学校
／北海道小樽未来創造高等学校／北海道釧路工
業高等学校／北海道釧路湖陵高等学校(定時制)
／北海道釧路商業高等学校／北海道札幌白石高
等学校／北海道札幌西高等学校／北海道札幌西
高等学校／北海道蘭越高等学校／札幌市立北
翔養護学校／北海道千歳高等支援学校／北海
道手稲養護学校三角山分校／北海道函館聾学
校／国語専門塾みがく

第16回 北海道小・中・高生短歌コンテスト 【講評】

歌人（公財）北海道文学館評議員 阿知良 光治

今回は、コロナ禍の影響もあつてか、全体的に応募数が減少し、昨年より二、〇三二名少ない五、五一四名でした。学校の事情もあると思いますが、昨年までは毎年増加していましたので残念に思います。応募した学校は一〇二校で、特別支援学校が四校あり、そのほか学習塾からの応募もありました。第一次審査通過者は三三九名、第二次審査に残ったのは二二二名、そのうち入選は八八名でした。審査に当たる私たちは「今年も心に残る素晴らしい作品に出合えますように」と期待しながら慎重に審査に当たりました。入選以上の作品は厳しい審査を通過したいずれも優秀な作品です。

今年も昨年同様新型コロナウイルスに関する作品が目につきました。短歌は時代を表すともいわれます。その時代の状況を短歌によって知ることが出来るということです。身近な出来事を自分なりに素直に表現することで、読む者の心に届く作品になります。最終審査に残った作品はそれぞれの学年の発達段階にふさわしいもので、身の回りの生活の様子が素直にうたわれており好感が持てました。なかでも特別賞に輝いた作品はそれぞれ工夫の跡が見られ独自の見方考え方が際立っており、素晴らしい作品でした。

今後とも基本を大切にして、日々の暮しの中で見たことや感じたことを飾らずにうたうと、良い作品が生まれます。その上で自分なりの表現の工夫をするとさらに良い作品になります。来年も皆さんにしかうたえない素晴らしい作品を期待しています。

入選された皆さん、おめでとうございます。

※掲載は部門別に学校名の五十音順。同学校内では学年順、同学年内では氏名の五十音順。

〔各作品の講評担当〕

特別賞／優秀賞・佳作・入選（小学生の部） 阿知良光治

優秀賞・佳作・入選（中学生・高校生の部） 大塚 亜希

《特別賞 北海道教育委員会教育長賞》

マスク越し旧友つどい笑い合う変わる背丈と変わらぬ絆

札幌光星中学校 2年 岡本 佳晃

【講評】「マスク越し」と現在のコロナ禍をうたい、すがすがしい作品である。気の置けない旧友との会話は心を解放してくれる。きつと自粛が続きしばらく会えなかったのであろう。下の句の「変わる背丈と変わらぬ絆」が抜群に効果的である。

《特別賞 北海道立文学館賞》

ひまわりがうつむいている通学路ちよつぴりさびしい秋の夕暮れ

札幌市立札幌北小学校 5年 水野 夏帆

【講評】いつも通っている通学路のひまわりが、夕暮れが近づいてうつむいているのである。普段は明るく元気な前を向いて迎えてくれるひまわりがうつむいて元気がない。下の句の「ちよつぴりさびしい秋の夕暮れ」がぴったりと収まっている。

《特別賞 北海道歌人会賞》

立ってみて。二人並んで背くらべ見上げる私は必死に背のび

北海道小樽未来創造高等学校 2年 齋藤 夢花

【講評】友達との微笑ましいワンシーンをうたってさわやかである。下の句の「必死に背のび」がこの作品を生き生きとさせている。もしかしてその相手はひそかに思いを寄せる男子かもしれない。相手を見る目が優しく感じられる。

《特別賞 北海道新聞社賞》

瞬き止め息さへ忘るる一音目疊を叩き札舞ふはらり

北海道札幌東高等学校 1年 細川 愛佳

【講評】百人一首のかるた大会の様子なのであろうか。上の句の緊迫感のある言葉で一首が引き締まっている。読み手の一音に集中している様子が感じられる。「疊を叩き札舞ふはらり」が特殊な情景もよくまとめている。

えにつきもかんそうぶんもこうさくもぜんぶきょうりゆうあーたのしかった

網走市立網走小学校 1年 吉田 大

【講評】夏休みの課題である絵日記や読書感想文や工作のすべてを「きょうりゆう」を主題にして作製したのである。恐竜好きの作者の様子が生き生きと表現されている。下の句の「あーたのしかった」にすべてが表されている。

ち図を見て同じ名前を見つけたよ行ってみたいな美里どうくつ

網走市立網走小学校 2年 吉田 美里

【講評】地図を見ていて自分の名前と同じ名の「美里」という地名を見つけたのである。そこが「美里どうくつ」と知り、親しみを感じて行ってみたいと思ったのであろう。好奇心が旺盛な時期であり、子どもらしい素直な気持ちが初々しい作品である。

すいかわりすいかの気持ち考える「まっすぐ来たわおれもうだめだ。」

札幌市立西岡小学校 6年 伊部 智成

【講評】高学年らしい発想が面白い。日頃から相手の気持ちを考える習慣があるのではなからうか。すいかの気持ちをユーモラスに表現して楽しい作品である。思ったことを素直に表現する柔軟さが評価された点である。

山々が色づいていくゆっくりと自分にあう色さがし出しながら

室蘭市立天神小学校 6年 藤原 実柚

【講評】秋になり山々が色づく様子を擬人化し、山自身が自分に合う色を探しながらいろいろな色に染められてゆくと捉えたのである。新鮮な感じ方が魅力的な作品である。前向きな生き方が感じられて好感を持った。

窓あけてふわりと薫る夏の風葉と葉のあいだ青空覗く

安平町立早来中学校 2年 城畑 有玖

【講評】暑い夏の日に吹く風の心地よさと夏の空の美しさを捉えた一首。窓の外の緑が風を一層さわやかにしていることがよく伝わってくる。また、具体的な描写によって、夏のくつきりとした景を表す表現力が秀逸だった。

百円のラムネのびんから見る夜空朱色の花火とじこめた夏

立命館慶祥中学校 2年 鈴木 雛乃

【講評】「百円」という数詞を出すことで、「ラムネのびん」の現実味が増した。透明なびんを透かして花火を見ていることを詩的でありながら現実味のある表現で描写できている、そのまま絵画にできそうな場面を切り取っている。

あと何度この制服を着るのだろう青春脱いでスーツ着るまで

北海道釧路商業高等学校 2年 千葉 香凜

【講評】学生であるということが上の句からわかり、下の句で卒業後、就職を目指しているという背景もわかる。限りある青春の日々を、「制服」という言葉で象徴し、前向きで、かつ、少しの寂しさも含んだ表現ができています。

雑音の社会が嫌で、やわらかいあなたの右の耳たぶが好き。

北海道札幌西高等学校 3年 小野寺弘泰

【講評】「雑音の社会」という抽象的なイメージで始め、「右の耳たぶ」という具体的な映像に転換して焦点を絞っている。耳に関わるものをつなげたことで統一感がありつつ、漢字とひらがなの対比も活かされている点が巧み。

《佳作》

小学一～三年生の部

なつのにわやさいはなたちそだつてるでもにがてなのパセリとトマト

北広島市立東部小学校 2年 多門 花佳

【講評】低学年らしい素直な表現で、思ったことを思ったまま作品化しているところが優れている。好きな野菜もあるのだろうけれど、苦手なパセリとトマトにしたところがよい。

球迫る外角打った転がったボールが走る自分も走る

札幌市立幌南小学校 3年 松浦 結斗

【講評】実際の野球の体験を短歌に表そうとしたところが優れている。上の句が具体的に臨場感あふれた一首になっている。下の句の「ボールが走る自分も走る」にリズム感が感じられる。

かおしっぱみみつめからだめはなあしぜんぶかわいいだいすきなゾウ

札幌市立札幌小学校 1年 坂上 彩月

【講評】大好きなゾウの部位をよく観察し、リズムよく並べ「ぜんぶかわいい」と素直に表現したところが子どもらしい特徴のある作品になった。ゾウを見るために動物園に何度も通ったのだろうと想像される。

ぐーんとねぶりっじしたらさかさまのふしぎなけしきひひひとわらう

札幌市立中央小学校 1年 橋本 作

【講評】体育の時間であろうか。体をそらしブリッジをしたのである。その時に見えたさかさまの景色をよんでい。 「ぐーんとね」の初句も生き生きとして効果的である。しかし何といても結句が子どもらしく楽しい。

夏の朝かすかに香る葉のにおい心やわらぎ今日が始まる

札幌市立篠路西小学校 6年 須藤 さち

【講評】夏の朝の爽やかさを詠んでおり、柔らかい感性を感じる作品。葉の香りを感じながら「今日が始まる」とまとめているところも高学年らしく前向きな姿勢が感じられる。

廃線の大夕張鉄道の蒸気機関車さびてさびしい

札幌市立新琴似小学校 4年 佐々木 優

【講評】廃線になった大夕張鉄道を作品化しようとしたところが、高学年らしい。展示されている蒸気機関車は動くことなくさびているのである。その寂しさを簡潔に結句で表現している。

ハラハラと母のお腹をなでているもうすぐ会えるぼくの弟

札幌市立新琴似小学校 4年 皆川蒼大朗

【講評】小学生らしい優しさを感じる作品。お母さんのおなかの中には、これから産まれてくる弟がいる。上の句の具体的な動作に期待感と兄としての自覚も感じられる作品である。

すいみん中也がき苦しむ熱帯夜あつちにごろりこつちにごろり

札幌市立手稲鉄北小学校 6年 菊地 舜弥

【講評】今年の夏は二十五度以上の熱帯夜が続いた。その寝苦しさを「もがき苦しむ」と表現し、下の句を「あつちにごろりこつちにごろり」とリズムカルな動作を繰り返したところがおもしろい。

おかあさん口紅ぬってとなきじゃくる鮮やかピンクにあこがれる時期

江別市立大麻東中学校 2年 山内 星來

【講評】幼い日の思い出だろう。母親の化粧をする姿と、鮮やかな色の化粧品、とりわけ口紅への憧れの気持ちがよく伝わってくる。「なきじゃくる」という表現で幼さを描いた点がよかった。

二年間会わぬ祖父母にまだ見せぬセーラー服の私前髪作った私

札幌市立向陵中学校 1年 矢野 七雨

【講評】コロナ禍でなかなか祖父母に会えない間に小学生から中学生になるという大きな区切りを迎えた作者。下の句で詠った自らの成長した姿から、二年というときの長さを感じさせる。

ラフティングどこもかしこも深緑と普段きかない鳥のさえずり

札幌市立東白石中学校 2年 千葉 縁

【講評】大自然の中のラフティング。辺り一面の大自然や、いつも聞く鳥とは違った鳥の声に、日常から解放されて心地よい時間を過ごせただろうことを端的な言葉で的確に歌っている。

学力も打球のようにのびていけ目標ラインは観客席だ

登別市立鷺別中学校 2年 尾崎 悠空

【講評】勉強を野球に例えた、ユーモラスで前向きな気持ちのよい歌。目標を単にホームランと言わず、観客席へと届く打球をイメージさせた点がよく、読み手も応援したい気持ちになる。

太陽が海へと沈むその前に光でつなぐ一筋の道

北海道小樽未来創造高等学校 3年 阿部 光佑

【講評】西の海に沈む夕陽が見せるうつくしい光景を過不足ない表現で詠っている。「つなぐ」という言葉で、光の道によって太陽と自分がつながれたような幻想的な気分を巧く言い当てた。

友達の着信無視した言い訳を綺麗な嘘に書き換える朝

北海道小樽未来創造高等学校 3年 西岡 伊織

【講評】現代の友達付き合いをリアルに描いた歌。言い訳も、メールなどで書いて伝えるから、直接話すよりも考える時間があるって綺麗な嘘にできる。そのことへの仄かな後ろめたさも感じられた。

夕日追うカメラ片手に人々が綺麗と感動心和らぐ

北海道釧路湖陵高等学校(定時制) 4年 森谷 麻未

【講評】夕日をカメラに収めるとは、スマホのことだろうか。現代的な一コマを切り取っているが、夕日そのものではなく、その人たちが感動しているのを見て和んでいる作者の感性に和む。

恋をしたいつもと違う話し方なんでかバレるお母さんには

北海道釧路商業高等学校 2年 鈴木 日毬

【講評】印象的な初句で恋心を詠うのかとおもいきや、親子の会話に話題が転換している点が面白い。母親の勘の良さだけでなく、親子の仲の良さも伝わってきて温かい気持ちになれる歌。

《入選》

小学一〜三年生の部

カッキーんバットにあてたどまんなかつぎのだせきもまたうってやる

札幌市立栄北小学校 3年 木村 桜空

【講評】野球の打席でヒットを打った瞬間を捉えている。初句の「カッキーん」が臨場感があって生き生きしている。結句も小学生らしい前向きな感情を表現して効果的である。

丸まってすやすやねむる白いねこ見ている私もふぁーとあくび

札幌市立桑園小学校 3年 安井 心美

【講評】眠っている猫を題材にして、子どもらしい優しい優しいうたい方で好感を持った。下の句の「見ている私もふぁーとあくび」に実感があって生き生きとしたおもしろい作品になった。

十さいのうちのインコはげん気だようたをうたうしニコニコわらう

札幌市立中央小学校 2年 井上 椿

【講評】自分の家で飼っているインコを題材にし、子どもらしい素直な作品で好ましい。見たまま思ったままと表現し、友達に語りかけるような表現も生きている。

なつのうみきもちいいのはみずの中サラサラのすなつるつるわかめ

札幌市立日新小学校 1年 木島ほのり

【講評】夏休みに海水浴に行った時の作品で、素直で子どもらしい一首。下の句のリズミカルな擬音語で水の中で戯れている姿がかわいらしく表現されている。

部屋の中さらさらすとすなどけい 一つぶずつが大事な時間

札幌市立平岡南小学校 3年 伊藤ひかり

【講評】印象的な作品である。部屋の中で砂時計を操作しているのであろう。砂が落ちる時間を大事な時間と捉えたところがこの作品の意図であろう。子どもの鋭い感性として大切にしたいものである。

ふわふわのわた雪みたいいうさぎの毛とけちやいそうねさわつてみたら

札幌市立伏見小学校 2年 三上 凜花

【講評】ウサギに触れた体験を子どもらしく表現していて好感を持った。ウサギのやわらかい毛を「わた雪みたい」と捉え、「とけちやいそう」と表現した感覚をほめたい。

なつやすみのしかつたなあの花火なんでもしたいふゆでもしたい

札幌市立北陽小学校 2年 西山 陽也

【講評】夏休みに家族で楽しんだ花火の事が忘れられないのである。自分の思いをそのまま言葉にしたもので、素直な気持ちで全面に出ていて好ましい。

いつの日か会いにいたらいいのになタイムマシンでカムイサウルス

新ひだか町立高静小学校 3年 原 万琴

【講評】カムイサウルスはむかわ町穂別で発見された恐竜で「むかわ竜」として親しまれている。その恐竜にタイムマシンで会いに行きたいという子供の夢がそのまま伝わってくる。

おんせんできもちよさそうかぴばらさんしつとりぬれたつるつるせなか

北海道教育大学附属札幌小学校 1年 石塚 立夏

【講評】カピバラはネズミの仲間で、1.2メートルほどで仕草がかわいくて動物園でも人気がある。そのカピバラが温泉に入っているのを見ての作品。下の句の子どもらしい観察が微笑ましい。

動物園夜にはねてたよアライグマニひきそろってしっぽをまいて

旭川市立豊岡小学校 4年 和田優空音

【講評】夜の旭山動物園での作品。人気のあるアライグマを見たかったのだが眠っていたのである。結句の「しっぽをまいて」の観察がこの作品の評価のポイントで成功している。

いつもはねひとりであるくかえりみちきょうはあなたとてをつなぐみち

小樽市立奥沢小学校 6年 成田 花梨

【講評】いつもは一人で帰る道を、今日は大好きなあなたと手をつないで帰るといふ。ほのぼのとした恋の歌であるうか。結句の体言止めも効いている。

天狗山衣がえだな秋の服赤黄オレンジ色づいて

小樽市立奥沢小学校 6年 山谷 海斗

【講評】秋になり、小樽の天狗山が色づく様子を、「衣がえ」と捉えたところが優れている。赤黄オレンジに変わる色合いを「秋の服」に喩えたとところもおもしろい。作者の感性が感じられる。

待ってるよみんなわいわいくつついてマスクはずして笑える日まで

釧路市立鳥取西小学校 5年 山根 悠聖

【講評】現在のコロナ禍により、人とふれあえないことへの残念な気持ちとうたっている。昔のように友達とくつきあって笑いたいのである。初句に「待ってるよ」を持つてきたところが良い。

ゆかたきてお家でやった夏祭りくじのはずれはお手伝い券

札幌市立北小学校 5年 松浦 梨瑚

【講評】コロナ禍により夏祭りが中止になったのであろう。家族だけで浴衣を着て夏祭りをしたのである。子どもたちでくじを作りそのはずれが「お手伝い券」というのが微笑ましい。

文字だけの工作みたくておもしろい指おりかぞえ31(サーティワン)に

札幌市立幌北小学校 6年 川村 煌

【講評】五・七・五・七・七と三十一文字の短歌を「文字だけの工作」と捉えたユニークな作品である。指折り数える三十一文字を高学年らしく「31(サーティワン)」と表現したところが斬新である。

夏休み線香花火見つめてる細いひもからにげる火の玉

札幌市立札幌北小学校 5年 奥 桜心美

【講評】夏休みにみんなで作った線香花火の作品。下の句の観察がユニークでおもしろい。小さな火花がパチパチと弾ける様子を「細いひもからにげる火の玉」と表現している。

ついにきたそろばんだまし見せてやる目の色変えて競技にのぞむ

札幌市立札幌北小学校 5年 新倉 咲音

【講評】現在そろばん教室に通っているのであろう。作者はそろばんには自信を持っていることが「そろばんだまし見せてやる」でよくわかる。その腕試しのそろばん競技に真剣に取り組む姿に迫力が感じられる。

おそくまでテレビで応援東京五輪無観客でもあふれる感動

札幌市立新琴似小学校 4年 五十嵐優真

【講評】今年行われた東京五輪はコロナ禍のため無観客で行われたが、日本の選手の活躍は目覚ましいものがあった。作者はテレビで応援しながらその感激に浸っているのである。

ザーザーと流れる川で魚たちがすばやく泳ぐかみなりのように

札幌市立新琴似小学校 6年 一條 宏太

【講評】川の中ですばやく泳ぐ魚の動作を「かみなりのように」と表現したところが斬新である。魚に興味をもって真剣に見ている作者の様子がいきいきと伝わってくる。

手作りの風鈴がゆれカラカラと私の身体涼しんでいる

札幌市立新陽小学校 6年 上坂 亜季

【講評】自分で作った風鈴が、風に揺れてカラカラと鳴っている。その音に身体全体が涼んでいるという。高学年らしい趣のある作品である。手作りの風鈴だからこそその趣である。

「やめるなよ」先生の言葉思い出し今日も泳ぐよ私の初恋

札幌市立東光小学校 5年 高橋 佑奈

【講評】水泳の部活動なのであるうか。以前指導してくれた先生の「やめるなよ」という言葉を思い出しながら練習に励んでいるのである。その先生は初恋の人だったのであるう。作者の純粋さが伝わってくる。

水不足雨がふらない野菜たちがかわいた土もひめいあげてる

札幌市立屯田南小学校 5年 枝元 凌大

【講評】今年の夏は猛暑が続き、その上一か月以上も雨の降らない日が続いた。野菜たちの事を思う優しい心を感じる素直な作品である。下の句「かわいた土もひめいあげてる」が効果的である。

熱風にかレーライスの香りするぼくのおなかはぐうーつとなる

札幌市立北都小学校 5年 時田航乃介

【講評】学校からの帰宅途中であろうか。あるいは部活の帰りか。熱い風にかレーライスのおいが流れて来たのである。空腹なのであるう。おなか「ぐうーつ」と鳴ったというユニークな作品である。

スイスイと自転車をこぐ真夏の日くだり坂では足をうかせて

札幌市立北光小学校 5年 赤坂 璃子

【講評】夏の暑い日に自転車をこぐのは辛い、下り坂ではこぐ必要がなく一気にスピードを上げることが出来る。爽快感を感じる作品である。「足をうかせて」という具体的な表現で作者の様子も想像できる。

一年中冷たくきれいなエメラルドぼくが育ったマレーシアの海

札幌市立宮の森小学校 6年 須部 玲瓏

【講評】作者はマレーシアで生まれ育ったのである。そのマレーシアの海の美しさを思い出している作品。「冷たくきれいなエメラルド」に作者の思いが凝縮している。

教室のまどから見える太平洋世界をつなぐ大きな海

室蘭市立天神小学校 6年 菊地 穂香

【講評】教室の窓から望む太平洋の雄大さを「世界をつなぐ大きな海」と表現したところが夢を感じさせる作品である。将来はその海を渡り外国へ行ってみたいと思っているのであろう。

交差点ふたり止まって長話過ぎゆく車四回目の青

旭川市立中央中学校 2年 田中 夏海

【講評】交差点で立ち止まるのは、そこで帰り道が分かれるのだろう。名残惜しくて話し込むうち、車が何台も通過し、信号も何度も青になる。仲のよい友達とのお喋りが聞こえてきそうなお歌。

入学し給食時間でマスクはずしはじめて見た顔同じ学校

網走市立第三中学校 2年 藤川 溪寿

【講評】給食でマスクをとってはじめてクラスメイトが同じ出身校であることを知った。現在中学二年生ということ、コロナ禍の初期の記憶がまだ生々しく残っているのがうかがえ感慨深い。

はじめてのマスク生活はや二年も一度みたいあの子の笑顔

網走市立第三中学校 2年 矢尾 実冬

【講評】三年間しかない中学校生活のうちの二年間がマスク生活の中で過ぎてしまった。マスクを外し笑い合いたいという気持ちに共感できる。「二年」「も一度」と数詞を重ねた工夫もよい。

泣いた夜母が放ったあの言葉結果は銀賞努力は金賞

石狩市立樽川中学校 2年 吉田 咲季

【講評】何に挫折を感じたかはわからないが、目の前の結果にうちひしがれていたところへの母の言葉。その努力と過程を見守ってくれていた母の言葉だからこそ響くものがあったのだろう。

懐かしい会話飛び交う給食が今は黙々個食の時間

江別市立大麻東中学校 2年 和田明倅実

【講評】倒置法を効果的に使って、「懐かしい」を初句にしたことで印象深い歌になった。会話しながらの給食を経験して知っているからこそ、寂しさがにじみ出るような一首である。

この時代普通になったオンラインたまにはみたいみんなの笑顔

小樽市立望洋台中学校 2年 成田 一音

【講評】授業も遊びもオンラインで行われるコロナ禍の現在を等身大の言葉で詠っている。毎日顔を合わせていたみんなの笑顔をたまにでいいから見たいという健気な気持ち伝わった。

自粛せよそう言われてもわからないテレビを見ると人がいつぱい

釧路市立共栄中学校 2年 笹川 歩夢

【講評】コロナ禍での、「自粛」に違和感や反発をおぼえる発想は多い。だが、現実の生活を映していると思っていたテレビの世界との間に妙な壁を感じた、という感性が目をつけた。

「トモダチ」の以上も以下もなれぬままこの道を何度歩けるだろう？

釧路市立共栄中学校 2年 高瀬 遥陽

【講評】「トモダチ」以外の関係になれないモヤモヤとした気持ちと、同じ道を歩ける密かな幸せ。いつかは「トモダチ」以上か以下になる、そのリミットを下の句に自分の言葉で表現している。

母さんのカルボナーラのいいにおいハッピーバースデーお父さん

札幌光星中学校 2年 住吉 康生

【講評】父親の好物の「カルボナーラ」で誕生日を祝う。それも、母親の手作りのもので祝うというところに、家族のあたたかな空気を感ずる。この歌もまた素敵なプレゼントになるだろう。

体育館シャトルの音色なり響く不満を砕くスマッシュの音

札幌市立栄町中学校 1年 松倉 永和

【講評】体育の授業、あるいは部活か。バドミントンのシャトルが響くという活発な上の句の「音色」が、下の句によって、コロナ禍の鬱憤を砕く「音」へと転換される仕掛けが巧みである。

真っ青な雲一つない空の下蝦夷富士眺め初ラフティング

札幌市立東白石中学校 2年 中野 美央

【講評】澄みきった雄大な自然の描写が続いたあとに、「初」という新鮮味のある言葉が選ばれていることで、統一感が出ている。「ラフティング」という言葉のみで人物を表現したのもよい。

ラフティング班のみんなと協力しゴール出来たよニセコの川を

札幌市立東白石中学校 2年 山本 実空

【講評】激しくアップダウンする波の中を下ってゆく様子と、前半に連続する「ん」のリズムが妙に合っていて面白い。地名を最後にもってきたことで、ニセコの自然が印象に残る効果が出た。

目の前が見えてるときの決意など壁の前では役に立たない

せたな町立瀬棚中学校 3年 川南 愛奈

【講評】目標を前にして壁にぶつかったときには、先のことなど見えない。見えているときにした決意は役に立たない。つらい現実に向かいながらの叫びのような一首が胸に迫った。

友達と遊ぶ妹見送って寂しくもある姉離れの日

苫小牧市立明野中学校 2年 三浦 星

【講評】遊び相手はいつも姉である自分だったのに、友達のできた妹は遊びに行ってしまった。「寂しくもあるが、嬉しくもあることを言外に詠ったところに、優しい姉の視線を感じた。」

まどをあけ小鳥さえずるねむい朝ほのかにかおる卵焼きあり

苫小牧市立光洋中学校 2年 勝木 章太

【講評】朝、だんだんと作者が目覚めていく様子が描かれていて、視覚から聴覚、そして嗅覚への刺激で完全に覚醒する。朝の風景が実感を伴って詠われていて心地よい一首である。

一週間始まり告げる月曜日私のシャッターあれ、開かない

登別市立鷺別中学校 2年 野崎奈菜子

【講評】自分というシャッターを開けることで一週間が始まるという着想が面白く、さらに、月曜なのにそのシャッターが開かないという。月曜の憂うつをユーモラスに表現している。

積み上がる減らぬ課題を枕にし現実逃避夏の夕ぐれ

立命館慶祥中学校 2年 廣瀬 莉子

【講評】枕になるほどの量の課題に突っ伏す作者の姿が描かれ、その季節、時間帯から逃れられない暑さも感じる。まさに「現実逃避」したい状況だろう。思わず応援したくなる歌である。

父の日に初めて作ったミルフィーユ父の笑顔がくれた思ひ出

池上学院高等学校 2年 柏原可奈子

【講評】他のケーキよりも手がかかるだろうミルフィーユを、父親のために作ったという温かいエピソード。おいしかったかは書かれていないが、「笑顔」から良い父の日だったと想像できる。

夏休み課題に追われGoogleの検索使って答えを探す

帯広北高等学校 1年 藤村 瀬那

【講評】現代らしい課題との戦い方が描かれている。Googleには何でも載っているが、それゆえに答えを見つけるのが難しいこともある。答えがあったかを書かないことでより現実味のある短歌になった。

勉強を始めたらずぐ言われたよ「あらめずらしい」「明日は雨ね」

帯広北高等学校 2年 馬淵 彩

【講評】やる気を出したら水を差される。あるあるだが、かきカッコ付きの台詞でユーモラスに場面を切り取れている。母が畳みかけたか、あるいは母と姉か。想像の余地があつて面白い。

楽しみで待ち合わせ場所に早く着く今から時計ゆっくりになれ

帯広北高等学校 3年 田中 碧依

【講評】相手を待つ時間も楽しみたい、という下の句の展開に小さな驚きがある。ゆっくりと相手を待ち、ゆっくりと一緒の時間を過ごしたいのだろう。その姿勢には羨ましさすら感じる。

汗をかき滴り落ちるこの暑さだけど食べるは熱いラーメン

帯広北高等学校 3年 渡邊 颯

【講評】「暑い時にこそ、熱いラーメンが最もおいしく感じる」という、ラーメン好きの実感があふれた力強い作品。滴り落ちる汗の表現が、酷暑の中での充実感も感じさせてくれる。

さみしいなそつぎようのじきちかくなりともとすごしたひびたからも

札幌市立北翔養護学校高等部 3年 堅田 真衣

【講評】卒業が近づき、友の大切さが身に染みるという歌。やや素直過ぎる表現ではあるが、率直な初句に始まる実感のこもった言葉が、友達と一緒に過ごした高校生活を輝かせている。

学校祭修学旅行も無くなった卒業前にロスタイム乞う

札幌創成高等学校 3年 金吉 真暉

【講評】主にサッカーの試合中、競技以外に使われた時間を補うロスタイム。「追加時間」の意のアイシヨナルタイムではなく、「失われた時間」という言葉の選択に無念が滲^{にじ}んでいる。

橘の香る庭先歩く君の袖引く淡い恋の日

北海道小樽未来創造高等学校 3年 池田 有沙

【講評】有名な古歌を思わせる世界観と自分の恋をうまく重ね合わせている。「昔の人の袖の香」というイメージを念頭に置いて、かつての淡い恋の記憶を読んだ人に想像させてくれる。

墓参りご先祖様に会いに行く「あなたは今はひいひいばあちゃん」

北海道小樽未来創造高等学校 3年 小川 大輝

【講評】自分のひいばあちゃんのお墓参りに、甥か姪を連れて行ったのだろう。甥や姪とは会ったことがなくてもひいひいばあちゃん。血の繋がりを大切にしていることが伝わってくる歌。

朝七時見慣れた道と同じバス学生服もあと少しだね

北海道小樽未来創造高等学校 3年 金澤 彩果

【講評】時間、道、バス、学生服。ずっと変わらなかつた日々が、卒業を前に愛着の対象となる不思議。「あと少しだね」という結句から、一緒に登校する同級生の姿までイメージさせる。

掛け声で手繋いで飛ぶ一瞬の波打ち際の夏の思い出

北海道小樽未来創造高等学校 3年 竹生 亮太

【講評】一列になって手を繋ぎジャンプした瞬間を写真に撮つたのだろう。語順の選択が巧く、「の」の繰り返しも心地いい。波の音や笑い声まで聞こえてきそうな、さわやかな歌である。

縁側で蚊取り線香火をつけて光とともに恋に落ちてく

北海道小樽未来創造高等学校 3年 長谷川愛唯

【講評】蚊が落ちるように恋に落ちるという発想。蚊取り線香の、同じ軌跡をぐるぐると回り続けるようなもどかさ、光が徐々に前進するイメージが、恋のテーマと相性がよかった。

放課後に私ひとりの教室でこっそり居眠り彼の机で

北海道小樽未来創造高等学校 3年 渡邊 乃愛

【講評】「彼」と遠い関係だったなら緊張して居眠りどころではない気がする。心許した関係だからこそ、ほっとできる場所として彼の机を選んだ。そんなストーリーが浮かび楽しく読んだ。

変わりゆく友の姿によるこびとせつなさおもうひとりの夜に

北海道釧路湖陵高等学校（定時制） 4年 米澤 一哲

【講評】同じ時間を共有してきた友の変化への戸惑いを、ひらがなを使ってうまく詠っている。結句の「ひとりの夜」で、その時の感情を表に出さず家まで持ち帰った葛藤が表現されている。

誰にでも隠しておきたいものはあるマスクの下のニキビ跡とか

北海道札幌北高等学校 3年 武藤 由奈

【講評】なにか秘密があるのかと思ったら、下の句で「ニキビ跡」のことか、と思わせて、「とか」と終わることでは
り秘密もあるのだと匂わせる。読み手を楽しませる作りが巧みである。

リモートの授業にも慣れ今ゆえの愉しさ見つける高一の春

立命館慶祥高等学校 1年 名取秀太郎

【講評】おそらく高校受験の時期もコロナ禍に当たり、大変な思いをしただろう。それでも新しい授業形態に慣れ
て、愉^{たの}し^{たの}しさまで見つける、現代の若者の前向きな歌に頼もしさを感じた。

振り向けばいつもそこには君がいて式を解いても出せない正解^{こたえ}

立命館慶祥高等学校 3年 今 裕矢

【講評】君との距離は近いが、振り向かなければ見えない微妙な距離である。数学の式は解けても、二人の今、今後
はどう考えればいいのか。青春の葛藤について想像力をかき立てる歌。